

発行：2008年9月11日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦  
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083  
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

昨年に引き続き「援助」のテーマで国際協力の現状と、問題点について

「NGOと一緒に考えよう」が開催されました。

今年度は、シャンティ山口受け入れのエコ・スタディーツアーに繋げるワークショップです。

主催：NGOネットワーク山口



# ふち体験で 感動

with NGO  
～のぞいてみよう 援助の世界～

NGOの活動現場を知り、スタッフや参加者と共に援助「する側」「される側」の気持ちや捉え方の違いを学び、「援助」とは何かを考えるワークショップです。

## ● 第1回 8月17日(日) 13:00～16:30 パルトピアやまぐち 大ホール

『援助する前に考えよう』 「スタディーツアーでタイに！1枚の看板から」  
「再びタイ・バーン村へ」

## ● 第2回 8月24日(日) 13:00～16:30 パルトピアやまぐち 中ホール

『援助する側される側』 「あなたなら…どのNGOを支援する？」  
「される側から見たボランティア」

## ● 第3回 8月31日(日) 13:00～16:30 山口県国際交流協会 ラウンジ

『いざNGOの現場へ』 「シャンティ山口の活動現場は？」  
「スタディーツアーでしたいこと、してはいけないこと」

◎ 連続講座となっておりますので、ぜひ3回続けてご参加ください ◎

★ タイ スタディーツアー 9月13日(土)～23日(火) (希望者：詳細は裏面に記載)

○ スタディーツアー報告会 9月28日(日) 13:30～15:30 パルトピアやまぐち 第一会議室

### 会場

・ パルトピアやまぐち

山口市神田町 1-80  
TEL: 083-923-6088

・ 山口県国際交流協会

山口市吉敷下東 4丁目17-1  
TEL: 083-925-7353

## ワークショップの様子



ファシリテーター荒瀬さん（NGO ネットワーク山口副会長・青年海外協力隊 OG）の進行で楽しく学べた ツアー参加予定の受講者



# シャンティ山口 エコ・スタディツアーのご案内

日程：平成20年9月13日（土）～9月23日（火）

内容：山岳民族、エコ現場、保育園の訪問、

ホームステイ、寮生との交流（スポーツ・伝統文化・環境衛生学習）

旅行代金：15万円程度を予定しています。+ 会費5,000円（学生3,000円）

申し込み締め切り：平成20年8月1日（金）

7/26(土)13:00～14:00

説明会があります。

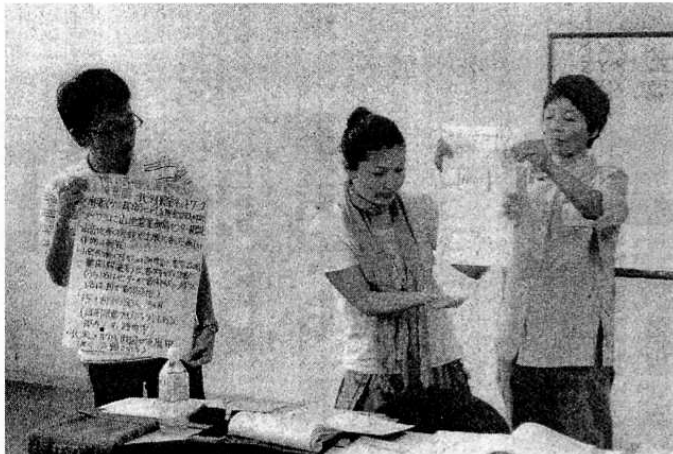
場所：山口県国際交協会



藤屋侃二さん(68) 下松市幸ヶ丘 元 KRY 取締役ラジオ局長

どんな援助ができるかを

発表する事前学習会



スタデー・ツアー



九月十日から十日間、タイのモン族を訪ねる旅をする。昨年秋のヨーロッパ巡礼の出発直前に肺炎になったためキャンセルし、今年三月に改めて計画していたが、二月に妻が脳梗塞で入院し、旅行どころではなくなつた。

退院した今も左半身にマヒが残り、海外旅行は無理。なのに妻を娘に預けて一人で旅に出ることにしたのは、観光旅行もどきの巡礼の旅ではなく、スタデー・ツアーだからである。一九九五年に娘のリカがパレスチナの母子保健プロジェクトにかかり始め、妻を中心にパレスチナを支援するNGO活動のワード・パレスチナが始まった。

(ワードはアラビア語で「約束」)山口県内にもたくさんあるNGOがあり、それらと結ぶNGOネットワーク山口がある。その中の一つ、シャンティ山口は一九九三年からタイのモン族を支援しているNGOで「世界中の貧困と抑圧にあえぐ草の根の民衆を支援し、すべての民族とともに生き、ともに学ぶ地球市民社会の実現と、地域の国際化、地球市民教育」を目的に活動している。

今回のスタデー・ツアーはこのシャンティ山口が活動している現地を訪ねるもので、参加者は大学生二人を含む六人。一緒にパネル展などをしたこともあってシャンティ山口の活動には以前から関心を持っていた。

インドシナ内戦でモン族の多くが難民となり、タイの難民キャンプや山岳地帯で自給自足の貧しい生活を営んでいる。シャンティ山口は彼らの自立を支援し、中学、高校への進学を助けるための学生寮を開設し、また村にトイレを作り、そのトイレから出るガスを集めて幼稚園の給食の煮炊きをする「エコ、循環トイレ」を開発した。

日本の肥だめの原理をヒントにしたというから面白い。ぜひ実際に見てみたい。

実はスタデー・ツアーは私の海外とのかかわりの原点なのだ。二十七年前の昭和五十六年、教会の地区役員をしている時、フィリピンへスタデー・ツアーをした。

フィリピンへの売春ツアーが最盛期だった時期で、カトリック国フィリピンの本当の姿を体験しようと呼びかけ、大学の寮を拠点にスラムにホームステイしたりしながら、貧しい人たちの自立を模索した。

三年間、交流が続いたが、現地の日本人シスターが転勤すると次第に薄れ、今では神父を通じて山の貧しい少女二人の学費を支援しているに過ぎない。サラリーマンだったのだから仕方がなかった面もある。しかし今は時間がある。もう一度、原点にもどってNGO活動を考えてみたい。表通りの玄関先を素通りする観光旅行ではなく、支援を必要としている人たちとの対等の交流を詳しく報告したいと考えている。(元山口放送取締役ラジオ局長)



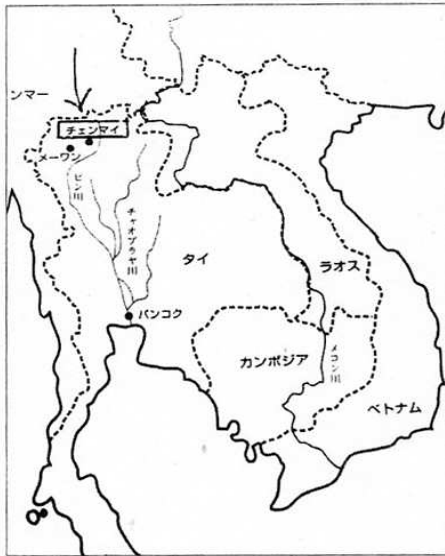
モン族についての参考書



### 閉塞感から逃げ出す

意外な人から「新周 声をかけられる。週一南、読んでますよ」と 回、二年以上も書き続

けているのだから、どこかで目に止まることもある。 前回の記事を読んだ方から「六十八歳にな



モン族はタイ北部のチェンマイ付近に住む

という、もう一人の自分がある。

スタデー・ツアーとはホームステイなどで現地の人と生活をともにしながら、援助はどの程度あるべきか、自分は何ができるかなどを学ぶ体験の旅だ。

今回のスタデー・ツアーはバンコクの北七百里のチェンマイ近く、日本のNGOが支援している山岳少数民族・モン族を訪ねるものである。

若しころ、フィリピンのスラムを体験するスタデー・ツアーを二年続けたことがある。今考えたら若しころからできたのだと思う。旅行者にも頼らず、言葉も通じないのにホームステイするのは結構疲れる。

今回、NGOの仲間からの誘いを受け、調子良く「行きます」と言ってしまったが、あとで後悔し「体調が悪くなった」と断ろうとした

したほどである。 建前のスタデー・ツアー、本音の観光旅行。いや、それも違うかもしれない。最近、自分の中にある閉塞感を感じる。

妻が病気で左半身が不自由になったことも要因の一つ。それ以上に古希を目の前にして自分自身、高齢化社会をどう生きるかという閉塞感がある。

「輝いて老いたい」という自分の目標が重くのしかかる。その閉塞感を、旅がもたらす「非日常性」でごまかそうとしているのが本当なのかもしれない。

スタデー・ツアーでも観光旅行でも、どちらも良い。閉塞感から逃げ出したかったのだ。それなのに「すごい」などと言われるとあまりに真実と違う。

動機は何であれ、行くことと決めた以上、モン族についての本を読ん

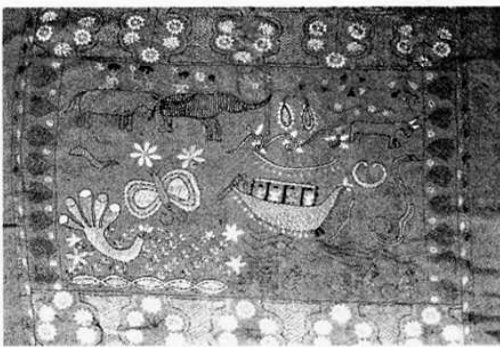
で少し勉強した。 我が家にNGOの展示会で買ったモン族の刺しゅうのタペストリーがある。よく見ると中央に船の絵が刺しゅうされている。山岳民族と言われるのになぜ船があるのだろうか。

モン族は紀元前、今の中国の貴州省に多く住んでいたらしい。その後、漢族に追われて東南アジアの山岳地帯に住むようになったが、その間、海岸近くにも住んでいた証がタペストリーに描かれている船だという。

彼らは文字を持たない。刺しゅうが彼らの歴史を表す。

国を持たない流浪の民・モン族。インドシナ内戦では大国にもあそばされた民族だ。彼らに比べると、今の日本は天国。私の中に閉塞感など取るに足りないものと気づかされる。

スタデー・ツアーで閉塞感から逃げ出すのではなく、打ち破る者になりたいと思う。（元山口放送取締役ラジオ局長）



モン族の刺しゅうのタペストリー

—シャンティ山口の活動募金にご協力をお願いします。—